



令和 7年 11月 21日
午前・午後 8時 30分 受領

議長	事務局長	係

No. 1

令和 7年 11月 21日

愛南町議会議長 吉田 茂生 殿

愛南町議会議員 池田 栄次

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問の要旨	答弁を求める者
<u>1. 町道の維持管理について。</u> 本町では、町道の除草、支障木の除去、水路清掃等を業者委託と住民協働の両輪で進めていると承知しております。特に地域住民の皆様のご協力により、道路環境の維持に成果を上げていると認識しています。 しかしながら近年、地域住民の高齢化が進み、従来のように住民協働による草刈りや支障木の除去が難しくなっています。さらに地球温暖化の影響により雑草の繁茂時期が長期化し、成長速度も速まっていることから、従来の作業計画・作業体制では十分に対応できていない状況が見受けられます。 特に通学路や生活道路においては、雑草の繁茂や支障木の張り出しの増加によって見通しの悪化や通行・歩行空間の狭隘化が安全な通行の妨げになっており、また、雑草の繁茂は野生動物の隠れ場所になりマダニによる感染症も危惧されます。 従来の委託作業や住民協働だけでは限界があるのではないかと考えます。 町道の維持管理は、住民の安全・安心に直結する重要な業務です。地域住民の高齢化や温暖化の影響を踏まえ、従来の委託と協働の枠組みを見直し、より柔軟で持続可能な維持管理を進めることが求められていると考えます。そこで伺います。	町長

(1) 現在の業者委託と住民協働による除草、支障木の除去、水路清掃等の年間計画について伺います。

(2) 地域住民の高齢化に伴い、住民協働による作業が困難になっている現状をどのように認識されているか伺います。

(3) 温暖化の影響による雑草繁茂の長期化や支障木増加に対して委託業者の作業頻度を拡充する、住民協働の限界を踏まえて労務班を配置して委託業者との連携強化を図り緊急を要する場合等に対処する、自走式の草刈り機を配備して貸し出し住民協働の負担軽減を図る等の対応策をこうじて持続可能な道路維持管理体制を構築することが必要と考えます。見解を伺います。

2. 高齢者のRSウイルス感染対策について。

町長

2040年には、日本の総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合が35%に達し、3人に1人が高齢者となると言われています。また、75歳以上の高齢者人口も大幅に増加し、総人口の20%を占めると推計され、「国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推計人口、平成30年推計）」において本町の総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合は57.4%に達し、75歳以上の高齢者人口は38.8%に達すると推計されています。高齢者の人口増加は、医療費や介護サービスの需要が増大し、医療介護人材の不足が課題とされています。肺炎は高齢者の死亡原因の上位を占める疾患であり、肺炎の予防と治療が今後重要になってきます。肺炎を引き起こすウイルス感染症の一つがRSウイルス感染症です。年齢を問わず何度も感染するため新生児から高齢者まで幅広い年齢層で感染すると言われています。主な感染経路は、せきやくしゃみなどによる飛沫感染とウイルスが付着した手指等を介した接触感染であるため、介護施設など免疫力の落ちた高齢者が多く閉鎖された空間での集団感染の事例も報告されているようです。初めての感染の場合、発熱・鼻水などの上気道症状が出現し、約20%から30%の割合で気管支炎や肺炎など下気道症状が出現されると言われています。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高

齢者に重症化リスクがあることが知られています。

60歳以上のRSウイルス感染症患者数は、年間70万人と推定されており、このうち入院は6.3万人、死亡は4,500人とされ、インフルエンザに匹敵する患者数と言われています。成人に対する特定の治療法がなく適切な診断の機会も少ないRSウイルス感染症は、高齢者の健康にとって深刻な脅威です。その予防策としてのワクチン接種は、有効な手段として大きな期待を集めており、また、増加する医療費の削減にも寄与すると考えます。

報道によると、新生児の感染対策として厚生労働省より妊娠28週から36週の妊婦へのRSウイルスワクチンの定期接種の方針が示されました。しかし、現時点で高齢者に対しては任意接種であると認識しています。

接種費用が2万円以上と高額なワクチンですので任意接種のため、全額自己負担となります。こうした状況をふまえ、本町のRSウイルス感染症の予防啓発と高齢者の皆さんの接種費用負担軽減のために高齢者のRSウイルスワクチン接種費用の助成が重要と考えます。そこで伺います。

(1) 本町における高齢者の死亡原因の現状を伺います。

(2) 高齢者への肺炎球菌及びインフルエンザの各ワクチンの接種状況について伺います。

(3) 本町におけるRSウイルス感染症の予防啓発についての見解を伺います。

(4) 本町として、高齢者のRSウイルスワクチン予防接種費用の一部助成の導入について見解を伺います。